

コニコニ

9号

文学部斗争委員会 宣伝局発行 1968.7.15

登校された全ての学友諸君！

文部部斗争委員会は、一昨日の文部部臨時学生大会の報告をし、更なる斗への結集を呼びかけないと考ふる。

■へ要求賛成へ向けて再度の強固な意志結集をかうとする

一七日由にめだる強固な巨館・本館封鎖へリケートと斗う強固な意志一致によるストライキ斗争の中にあひて用かれた臨時学生大会は、調査ヒ譲上をめぐる学校側・教授会の動向・これに対する我々の斗争を再度大衆的に総括し、七・三学生大会において決定された長期スト体制を我々の要求賛成に向けてより具体的なものに深化させ、夏休み突入という客観的に困難が状況を打破すべく斗う強い意志一致を用構築する場としてあつた。そして、五〇〇名近い学友の結集のもとに、対文部省への教育大の標準提出の提出〆切りである二二日までの斗争を中心に夏休み中も含む短期限スト方針（斗争委員会事ム届提出案）を圧倒的な多数でもつて決定した。（養成二三六・反対一四三・保二〇・反二四七・保二〇・反二四七）

この学生大会が、明確に以上のようならび、二学生大会決定の長期スト体制の内実をより深め具體化するという点にあつたにもかゝらず、この間一貫して斗争を放棄してきた一部の諸君から、またしての我々のストライキ斗争を戦術的に優先化して、「本館封鎖」撤去が公された。これはまさしく彼らの執行部系諸君の自らの斗争放棄・諂々・妨害冒頭であつたのだ。そのことは、彼らの提出した対案が圧倒的多数で反対（養成一四三・反二四七・保二〇・反二四七・保二〇・反二四七）されたことにみづて大衆的判断がなつたのである。

現在まで、我々は調査ヒ譲上評議会決定白紙撤回をかうとするべく対評議会大衆団交を追求してきた。期初、対農、教改授会との大衆団交と文斗争委を中心かうとしていた。そして、既存の大學生自治・教授会・学部の幹の内の自らを打破し、学生が主体的に登場することによって、対評議会大衆団交の実現が可能となるのだ。この向かれわれが、各学部教授会を追求してきたことは、彼らの提出した対案が圧倒的多数で反対（養成一四三・反二四七・保二〇・反二四七・保二〇・反二四七）されたことによつて大衆的判断がなつたのである。

また一方において、教授会内部に一定の動搖へ調査ヒ譲上評議会承認したこと一が起つてきている。このような動搖が、我々の巨館・本館封鎖を含む筑波移転そのものに対するテデオルグ・教官封固、教室会談、授書運動、教官学生の統一集会、クラス合宿等などといふ全く、現実の情況と斗争の主体に対する極度の欠落したピンボケ的方針にとならない方針を出してきてことによつて明らかにほつたのである。彼らの向願とするところが、所謂既存「筑波移転そのものに鋭く対決する中から打ち破っていくことが必要であろう。

一部の諸君（旧執行部系諸君）はこの間の斗争を何ら主体的に行いえなかつた。このことは一昨日の学生大会で、彼らが「本館封鎖解除方針」として破廉恥にと再度出し、そして教官オルグ、教官封固、教室会談、授書運動、教官学生の統一集会、クラス合宿等などといふ全く、現実の情況と斗争の主体に対する極度の欠落したピンボケ的方針にとならない方針を出してきてことによつて明らかにほつたのである。彼らの向願とするところが、所謂既存「民主主義」「大学の自治」を守る上で決してあり得ないのである。

22日対文部省概算要求提出〆切と控えて、「調査ヒ譲上決定」は最終的局面を迎えている。推進派は「決定しと進む」といふ。我々は、現学長の任期切れ前に対評議会大衆団交を実現し、決定しとその次の巨館封鎖回復していく斗いと展開しなければならない。学校側の四年生と中心にしきり組し運動に対して、さらに「本館封鎖解除方針」が一部の諸君の策謀に對して、我々は斗う意志をクラス階級へ再度燃えし、文斗争委に結集し、そのような一切の斗争妨害は敗のけ、断固として最後まで斗い抜こう。誰も、農学部がストを解除した困難な主體の状況の中で、現在なによりも全学斗争委員会の結成が必要である。文斗争委は、各学部自治会の執行部、全学の斗う学友に対し全学斗争委の結成を呼びかける。

評議会

未行

評議会

未行

へ教養部教授会、対評議会交渉を条件付けて決定へ

る由、学生大會の終了後、我々は教養部教授会に対して廿日の確認事項である評議会開催と教育部

教授会が幹部するか否かの回答を要求する大眾行動を展開した。そこで文・斗争委に示された内容は次の

如きものであつた。

教養部教授会は全學學生と評議会との話し合いを次の条件にて幹部する事を決定す。

。話し合ひは幹部が株房ある處所で行なわれること、その為司呈は補選並び學生代表とする。

。話し合ひは時刻を定期と、厳守して行なめること、この条件は從來、教・教授会と學生院生との
話し合ひで常に守られしてきたことである。

。話し合ひはなるべく早い時期にて同月廿四日(月)に行なわれること。

。話し合ひは、6・20調査費計上問題とすること。

／教・教授会決定と我々の立場＼

我々は、3日の大學生大会上において確認された對教・教授会との回捲要求行動の結果、先に擧げた株房事件を機、吉田寅を得たわけであるが、同日の斗争委員会で次の称名立場といふものを確認してゐる。

、評議会大衆団交を重んじ実現する為には、單なる話し合ひより教授による學生の譲得(では法的的)不十分であり、徹底した討論が必要であり、そこでの確認事項は公的拘束力をもつこと

即ち

三時頃は兩者の確認がなされるまでとすること

、三時頃は補選協議を行なうとして、補選協議が

「これまことに學生を優柔する役割しか果してこなが、たゞ

こうから考へて、不適当である」と判断する。

四、國交の条件については、「時刻、場所、司会成り当然、首領側と學生代表が直接話し合つてしまひの間」とが

確認されなければならぬこと

の各項である。

又、文・斗争委は以下のことを廿日の學生大會で決定してゐる。

評議会大衆団交を重んじ実現するためには文・斗争委は各學部自治委員と早急に話し合い、國交の条件など直統一いた見解として打ち出することを呼びかけます。各學部自治委員は、早急に文・斗争委まで連絡して下さい。

本日の學内総決起集会に結集してハラハラ！

今日からの一週間が、斗争の最大の火場であり、そして「調査に討上決定」の最終的局面前である。これに付しれりわけに、本日十時がらの本館前全學総決起集会で結束して戦するうな強固な意志結束を行おう。そして本日予定されている、M.P.委・教授会・文獻私事務再開に対する回答に対する行動を、文獻私事務再開のものとて廻用しそう。

評議会大衆団交実現へ、文獻私事務再開へ

六・二〇評議会決定自殺撤回、

M.P.委即時解散、全學斗争委を天下からへ

暴徒暴動阻止へ結成しよう、